

常磐公園の緑の計画についてのアンケート結果

1. 概要

(1) アンケートの対象

旭川市在住の18歳以上の方の中から、無作為に3000人を抽出。
年齢の分布は人口の比率から抽出。

(2) アンケートの実施期間

平成24年4月1日～平成24年4月16日

(3) 回収状況

配布数：3000人

回答数：1215人

回収率：約41%

(4) 集計方法

「最大2つまで」等、回答数の上限を設定した質問に対して、上限より多く選択された回答については、無回答として集計した。

2. 考察

質問1：回答者属性

- ・回収率はほぼ年齢分布通りの割合となったが、わずかに40代以下の回答率が低く、50代以上の回答率が高くなった。
- ・計画の周知度は、「十分知っている」と「聞いたことがある」人を合わせると約7割の方が計画について知っていて、中でも、年代が上がるにつれて計画の周知度も高いことがわかった。

質問2：常磐公園の特徴

- ・20～40代は美術館などの文化施設、60・70代は歴史のある公園と感じている。
- ・水辺空間や文化施設など、常磐公園唯一のものが特徴と捉えられている。

質問3：利用状況

- ・過去1年間に公園を利用した人の割合はほぼ5割であり、年配の方の利用者が多い。
- ・年代別の割合では、30代と40代は利用率が高く、職業別の割合では、主婦の方の利用率が高い。
- ・計画の周知度の高い人の公園利用が多い。

質問4-1：利用頻度（過去1年間に公園を利用した方のみ回答）

- ・公園の利用頻度は年数回程度の方がほとんどである。
- ・利用頻度が高いのは60代以上の方及び会社員と無職の方。
- ・利用頻度も計画を知っている方の方が高い。

質問4-2：利用目的（過去1年間に公園を利用した方のみ回答）

- ・公園の利用目的はイベントや施設利用など常磐公園固有の特徴が多く、理由としてはその他の意見からも、駐車場の少なさなど交通の便の悪さが予想される。
- ・年代別で見ると、20代30代はイベント、60代以上は施設が主な利用目的である。また、60代以上は樹木や花の観賞目的でも利用している。

質問1～4

- ・常磐公園の特徴は他の公園には見られない水辺空間や文化施設であり、その目的とイベントで公園を利用する方が特に年代の高い方に多い。日常の文化施設を利用の目的とされる方などを公園内に導き、賑わいを創出していくことが求められる。

質問5：緑に関する良い印象（過去1年間に公園を利用した方のみ回答）

- ・緑に季節感があると騒音を和らげるなど心が安らぐなど景観や快適性の面に良い印象を感じている方が多い。
- ・年代別で見ると、20代30代は広い芝生、60代以上は高木・巨木に良い印象を感じている。
- ・常磐公園の特徴として、景観面を挙げる方は少なかったが、緑に関しては景観面の役割が大きい。

質問6：緑に関する悪い印象（過去1年間に公園を利用した方のみ回答）

- ・目を楽しませる花や緑の量や質など観賞価値が低い印象を感じている方が多い。
- ・改修計画について知っている方は、枯れ枝や枯れ木の危険性など常磐公園の緑の課題を把握している。

質問7：常磐公園の緑に期待すること

- ・緑に関する良い印象と同様に、季節の変化が感じられることや心身が癒される空間など景観や快適性の面が常磐公園の緑に求められている。
- ・年代別に見ると、20代30代は子ども達が安心して遊び学べる場であること、60代以上は多様で変化に富んだ樹木があることに期待している。

質問5～7

- ・公園を利用している方もしていない方も公園の緑には季節感があるような景観面と心身が癒されるような快適性の機能を期待している。特に景観面は良い印象を与えている一方で、観賞価値の低さが指摘されるなど、期待値が高いことがわかる。
- ・緑を個別に見たときには、質の面の劣化による危険性が理解されている。

質問 8：樹木の手入れ・世代交代について

- ・世代交代については、計画的な後継樹の育成が求められ、現状のまま樹木を残していくことは求められていない。
- ・改修計画について知っている方は、課題を把握しているため、樹木の自然形を重要とみている。

質問 9：緑のあり方に関する観点

- ・快適性、景観、安全性の重要度はほぼ差がなく、生態系の観点の重要度は低くなっている。
- ・年代や計画の周知度から見ても、特に重要と思う観点到に差はなく、快適性、景観、安全性に特に配慮し、樹種の選定や配置を検討していく。

質問 10：樹種の選定に関する方針

- ・景観面から郷土樹種の中でも、四季を通じて楽しめる多様な樹種を選定していくが重要である。
- ・改修計画について知っている方は、安全面から寿命のバランスを重視している。

質問 11：配置に関する方針

- ・密植を避けて、利用者の安全性に配慮した配置が重要である。
- ・樹木の特性に合わせて、適正間隔で高木を配置していくなど生態系、景観、管理面に考慮する一方で、緑以外の面からも防犯・安全対策が必要である。

質問 12：ゾーンごとの考え方

- ・現状のままではなく、各ゾーンの特性や条件などを考慮し、整備を検討する必要がある。
- ・利用者の安全の観点到に焦点を当てた整備が特にふさわしいとされている。
- ・具体的には、園路沿いの防犯面や子ども達の安全に配慮することが特に望まれている。

質問 9～12

- ・樹種の選定や配置に関しては、現状のままを維持していくのではなく、快適性、景観、安全性の観点到に特に配慮し、整備していくことが望まれている。特に公園利用者の安全性を重視し、紅葉や花など景観に優れた樹種を適正に配置していく。

質問 13：常磐公園の緑を守り育てる活動

- ・イベントや維持管理作業など、行動・体験系の活動に市民の方の参加意欲が高い。
- ・改修計画について知っているの方が、活動への参加意欲が高く、緑に関する市民意識の向上が重要であると考えられている。